

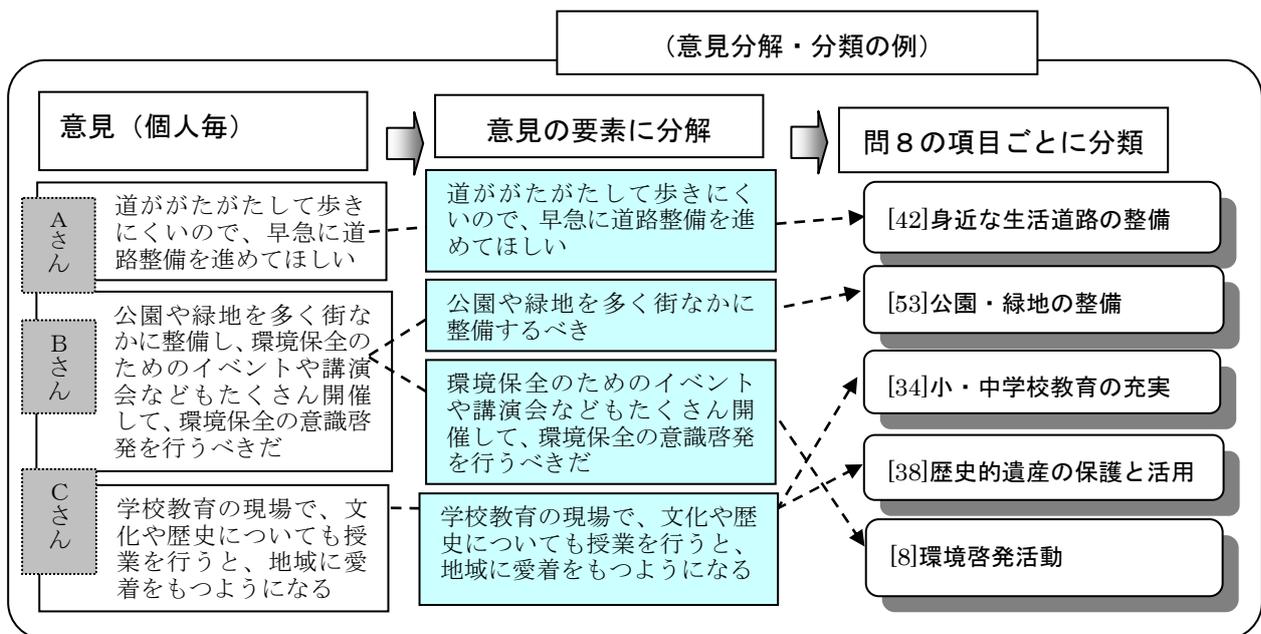
9. 自由意見のとりまとめ

問9 本調査票に同封いたしました、上越市の現状や近年の取り組みの一部などを紹介しています参考資料をご覧になったうえで、今後の市政やまちづくりについてのご意見を自由にお書きください。

◆分析の方法

自由意見欄に記入された各意見を以下のように分類して整理した。

- 今後の市政やまちづくりについての意見を、問8「各分野における取組についての満足度・重要度」で設定した項目（60項目）により分類した。
- 問8で設定した項目に分類できない意見は、「その他」の意見として分類した。
- 分類した意見の回答者数と意見数を集計した。回答者数、意見数については、地域別の集計も行った。
- 自由意見について、意見数の多かった項目について、主な意見を整理した。整理にあたっては、年齢層、性別、居住地区を整理している。



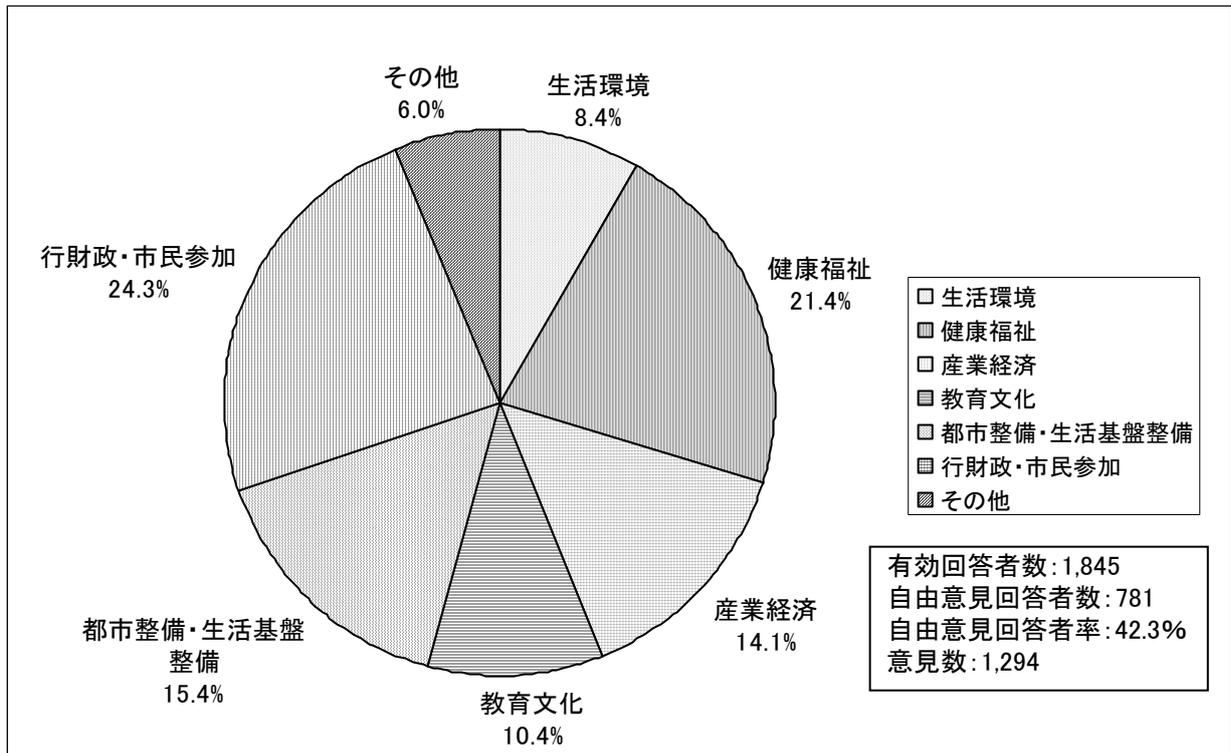
以上の方法による自由意見の集計・整理結果を次に示す。

■分析結果

<自由意見全体集計>

	合併前の上越市	旧 13 町村	旧東頸城郡	旧中頸城郡	旧西頸城郡	地区不明	全体
回答者数	488	288	49	223	16	5	781
割合	62.5%	36.9%	6.3%	28.6%	2.0%	0.6%	100.0%
意見数	813	481	78	373	23	7	1,294
割合	62.8%	37.2%	6.0%	28.8%	1.8%	0.5%	100.0%

<分野別集計>

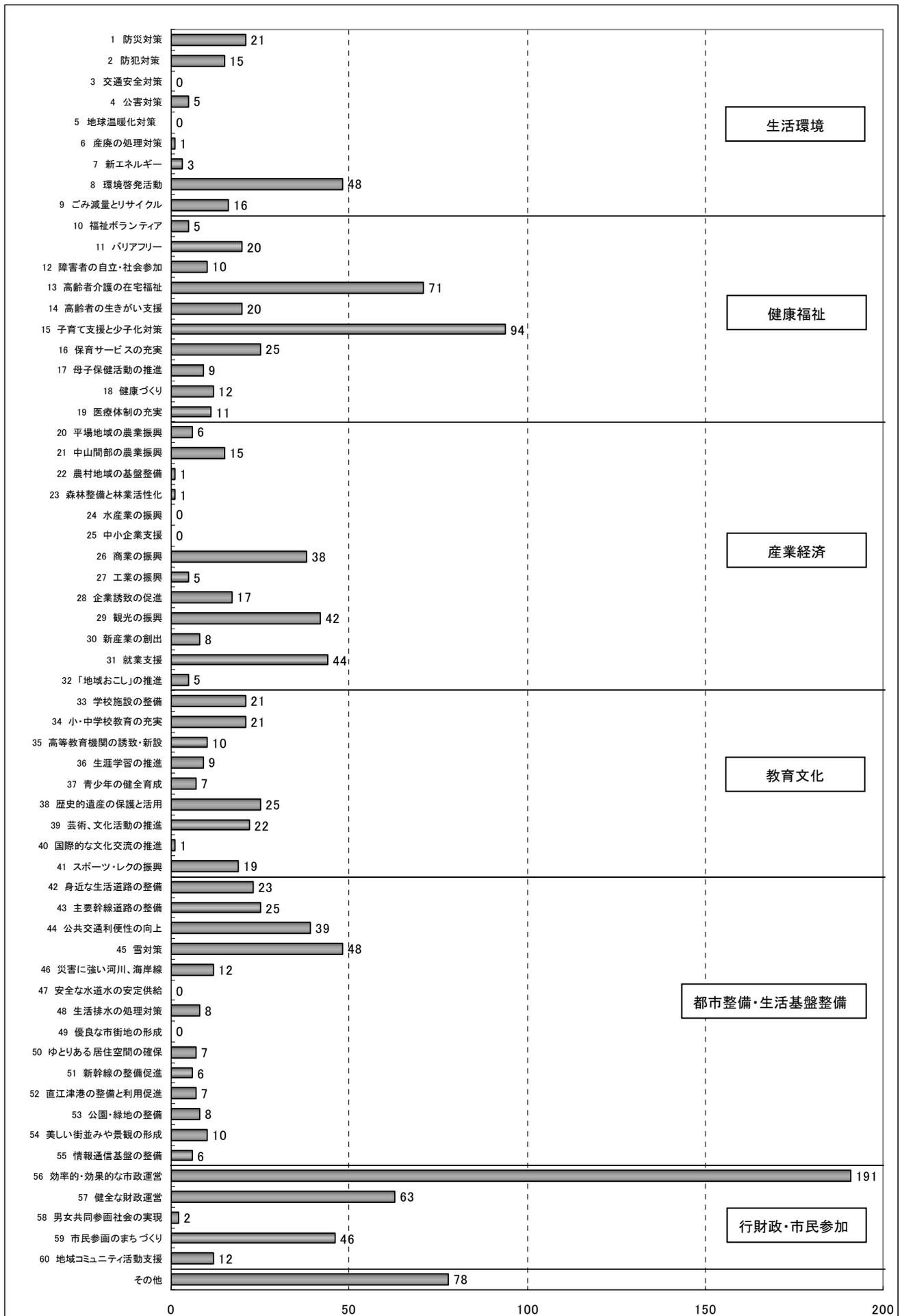


	合併前の 上越市	旧13町村	旧東頸城郡	旧中頸城郡	旧西頸城郡	地区不明	合計
生活環境	72 8.9%	37 7.7%	9 11.5%	28 7.5%	0 0.0%	0 0.0%	109 8.4%
健康福祉	170 20.9%	107 22.2%	13 16.7%	87 23.3%	7 30.4%	0 0.0%	277 21.4%
産業経済	129 15.9%	53 11.0%	8 10.3%	41 11.0%	3 13.0%	1 14.3%	182 14.1%
教育文化	94 11.6%	41 8.5%	3 3.8%	35 9.4%	0 0.0%	3 42.9%	135 10.4%
都市整備・生 活基盤整備	129 15.9%	70 14.6%	20 25.6%	47 12.6%	3 13.0%	0 0.0%	199 15.4%
行財政・市民 参加	172 21.2%	142 29.5%	17 21.8%	113 30.3%	10 43.5%	2 28.6%	314 24.3%
その他	47 5.8%	31 6.5%	8 10.3%	22 5.9%	0 0.0%	1 14.3%	78 6.0%
合計	813 100.0%	481 100.0%	78 100.0%	373 100.0%	23 100.0%	7 100.0%	1,294 100.0%

今後の市政やまちづくりについての自由意見を分野別にみると、「行財政・市民参加」に対する意見が24.3%で最も多く、次いで、「健康福祉」(21.4%)となっている。

「行財政・市民参加」については合併による地域格差のない市政運営を望む声が多く、「健康福祉」では少子高齢社会の進展に対する子育て支援、高齢者福祉に関する意見が多くなっている。

年代別の意見では、60代、50代、40代の順で意見が多い。各年代の特徴としては、20代と30代は「子育て」、40代は「市民参加」、50代と60代及び80代以上では「高齢者対策」、70代は「雪対策」についての意見が多くなっている。



<地域別・項目別意見数順集計>

分類項目	合併前の 上越市	旧東頸城郡	旧中頸城郡	旧西頸城郡	地区不明	合計	割合
56 効率的・効果的な市政運営	101	11	70	8	1	191	14.8%
15 子育て支援と少子化対策	57	3	31	3	0	94	7.3%
13 高齢者介護の在宅福祉	42	3	24	2	0	71	5.5%
57 健全な財政運営	34	2	25	1	1	63	4.9%
8 環境啓発活動	30	4	14	0	0	48	3.7%
45 雪対策	31	7	9	1	0	48	3.7%
59 市民参画のまちづくり	29	3	13	1	0	46	3.6%
31 就業支援	30	2	12	0	0	44	3.4%
29 観光の振興	35	2	4	0	1	42	3.3%
44 公共交通利便性の向上	30	1	8	0	0	39	3.0%
26 商業の振興	32	3	3	0	0	38	2.9%
16 保育サービスの充実	16	2	6	1	0	25	1.9%
38 歴史的遺産の保護と活用	18	0	5	0	2	25	1.9%
43 主要幹線道路の整備	14	3	8	0	0	25	1.9%
42 身近な生活道路の整備	16	2	4	1	0	23	1.8%
39 芸術、文化活動の推進	15	0	6	0	1	22	1.7%
1 防災対策	14	3	4	0	0	21	1.6%
11 バリアフリー	12	0	8	0	0	20	1.6%
14 高齢者の生きがい支援	14	1	5	0	0	20	1.6%
33 学校施設の整備	13	0	8	0	0	21	1.6%
34 小・中学校教育の充実	14	1	6	0	0	21	1.6%
41 スポーツ・レクの振興	14	1	4	0	0	19	1.5%
28 企業誘致の促進	11	0	6	0	0	17	1.3%
9 ごみ減量とリサイクル	11	0	5	0	0	16	1.2%
2 防犯対策	10	2	3	0	0	15	1.2%
21 中山間部の農業振興	5	0	8	2	0	15	1.2%
18 健康づくり	8	0	4	0	0	12	0.9%
19 医療体制の充実	5	3	2	1	0	11	0.9%
46 災害に強い河川、海岸線	5	2	5	0	0	12	0.9%
60 地域コミュニティ活動支援	6	1	5	0	0	12	0.9%
12 障害者の自立・社会参加	6	1	3	0	0	10	0.8%
35 高等教育機関の誘致・新設	7	0	3	0	0	10	0.8%
54 美しい街並みや景観の形成	7	1	2	0	0	10	0.8%
17 母子保健活動の推進	8	0	1	0	0	9	0.7%
36 生涯学習の推進	6	1	2	0	0	9	0.7%
30 新産業の創出	4	1	2	1	0	8	0.6%
48 生活排水の処理対策	5	0	2	1	0	8	0.6%
53 公園・緑地の整備	6	0	2	0	0	8	0.6%
20 平場地域の農業振興	3	0	3	0	0	6	0.5%
37 青少年の健全育成	6	0	1	0	0	7	0.5%
50 ゆとりある居住空間の確保	5	1	1	0	0	7	0.5%
51 新幹線の整備促進	4	1	1	0	0	6	0.5%
52 直江津港の整備と利用促進	5	0	2	0	0	7	0.5%
55 情報通信基盤の整備	1	2	3	0	0	6	0.5%
4 公害対策	4	0	1	0	0	5	0.4%
10 福祉ボランティア	2	0	3	0	0	5	0.4%
27 工業の振興	5	0	0	0	0	5	0.4%
32 「地域おこし」の推進	3	0	2	0	0	5	0.4%
7 新エネルギー	2	0	1	0	0	3	0.2%
58 男女共同参画社会の実現	2	0	0	0	0	2	0.2%
6 産廃の処理対策	1	0	0	0	0	1	0.1%
22 農村地域の基盤整備	1	0	0	0	0	1	0.1%
23 森林整備と林業活性化	0	0	1	0	0	1	0.1%
40 国際的な文化交流の推進	1	0	0	0	0	1	0.1%
24 水産業の振興	0	0	0	0	0	0	0.0%
3 交通安全対策	0	0	0	0	0	0	0.0%
5 地球温暖化対策	0	0	0	0	0	0	0.0%
25 中小企業支援	0	0	0	0	0	0	0.0%
47 安全な水道水の安定供給	0	0	0	0	0	0	0.0%
49 優良な市街地の形成	0	0	0	0	0	0	0.0%
その他	47	8	22	0	1	78	6.0%
合計	808	78	373	23	7	1,294	100.0%

<年代別・項目別意見集計>

分類項目	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	未記入	合計
1 防災対策	1	0	4	7	6	2	0	1	21
2 防犯対策	2	2	5	2	3	1	0	0	15
3 交通安全対策	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4 公害対策	1	0	0	1	2	1	0	0	5
5 地球温暖化対策	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6 産廃の処理対策	0	0	0	0	1	0	0	0	1
7 新エネルギー	0	2	0	1	0	0	0	0	3
8 環境啓発活動	6	4	6	4	16	8	4	0	48
9 ごみ減量とリサイクル	2	2	3	2	7	0	0	0	16
10 福祉ボランティア	1	0	2	1	1	0	0	0	5
11 バリアフリー	2	4	1	2	4	5	2	0	20
12 障害者の自立・社会参加	0	3	2	3	0	2	0	0	10
13 高齢者介護の在宅福祉	1	8	10	15	22	9	6	0	71
14 高齢者の生きがい支援	2	1	2	1	8	4	1	1	20
15 子育て支援と少子化対策	12	25	10	15	21	9	2	0	94
16 保育サービスの充実	4	8	2	4	5	1	1	0	25
17 母子保健活動の推進	2	2	1	1	1	1	1	0	9
18 健康づくり	0	1	0	1	2	6	2	0	12
19 医療体制の充実	1	3	2	3	1	1	0	0	11
20 平場地域の農業振興	0	0	0	4	1	1	0	0	6
21 中山間部の農業振興	2	0	1	6	3	2	1	0	15
22 農村地域の基盤整備	0	0	0	0	0	1	0	0	1
23 森林整備と林業活性化	0	0	0	0	1	0	0	0	1
24 水産業の振興	0	0	0	0	0	0	0	0	0
25 中小企業支援	0	0	0	0	0	0	0	0	0
26 商業の振興	4	3	7	5	10	6	3	0	38
27 工業の振興	1	1	0	1	1	1	0	0	5
28 企業誘致の促進	1	0	3	4	5	2	2	0	17
29 観光の振興	6	8	6	9	9	2	2	0	42
30 新産業の創出	0	1	0	4	2	1	0	0	8
31 就業支援	2	4	8	12	11	6	1	0	44
32 「地域おこし」の推進	0	0	1	3	0	1	0	0	5
33 学校施設の整備	0	6	2	3	6	3	1	0	21
34 小・中学校教育の充実	1	4	3	3	6	3	1	0	21
35 高等教育機関の誘致・新設	2	1	3	2	2	0	0	0	10
36 生涯学習の推進	1	1	1	1	3	0	1	1	9
37 青少年の健全育成	0	1	1	1	3	0	1	0	7
38 歴史的遺産の保護と活用	2	2	3	3	9	2	4	0	25
39 芸術、文化活動の推進	4	3	3	5	4	2	1	0	22
40 国際的な文化交流の推進	0	0	0	1	0	0	0	0	1
41 スポーツ・レクの振興	2	3	4	4	4	1	1	0	19
42 身近な生活道路の整備	1	7	2	6	5	1	0	1	23
43 主要幹線道路の整備	3	5	2	5	7	1	1	1	25
44 公共交通利便性の向上	5	1	6	9	10	4	4	0	39
45 雪対策	2	7	5	11	8	11	3	1	48
46 災害に強い河川、海岸線	0	2	1	2	5	1	0	1	12
47 安全な水道水の安定供給	0	0	0	0	0	0	0	0	0
48 生活排水の処理対策	0	1	0	4	1	2	0	0	8
49 優良な市街地の形成	0	0	0	0	0	0	0	0	0
50 ゆとりある居住空間の確保	0	0	1	3	1	2	0	0	7
51 新幹線の整備促進	1	0	1	0	3	1	0	0	6
52 直江津港の整備と利用促進	0	2	0	2	3	0	0	0	7
53 公園・緑地の整備	1	1	1	2	2	1	0	0	8
54 美しい街並みや景観の形成	1	1	2	3	1	2	0	0	10
55 情報通信基盤の整備	1	0	1	4	0	0	0	0	6
56 効率的・効果的な市政運営	18	17	33	45	41	28	9	0	191
57 健全な財政運営	9	11	8	13	14	7	1	0	63
58 男女共同参画社会の実現	0	0	0	0	1	1	0	0	2
59 市民参画のまちづくり	4	6	11	6	8	9	2	0	46
60 地域コミュニティ活動支援	1	2	6	1	1	1	0	0	12
その他	1	7	10	20	14	14	9	3	78
合計	113	173	186	270	305	170	67	10	1,294
割合	8.7%	13.4%	14.4%	20.9%	23.6%	13.1%	5.2%	0.8%	100.0%

以下に、各分野に関して意見数が多かった上位5項目の主な意見を示す。

(1) 「生活環境」分野に関するご意見

【環境啓発活動に関するご意見 (48件)】

- 全体的に自然環境を大切にしたい行政を展開してもらいたいという意見が多く、年代別の特徴では60代の意見が16件と多い。
- 環境やゴミ問題に対する取り組みに対して、まだ、合併後のすべての地域へ行き届いていないと思う。小・中学校での総合教育の場に積極的に取り入れていくべきでは。(20代男性、旧中頸城)
- 都市基盤・生活基盤は、上越地区は曲りなりにも整備されてきましたが、環境保全と活用についてはまだまだ遅れているように思います。(70代男性、合併前上越市)

【防災対策に関するご意見 (21件)】

- 安全・安心して暮らせる地域づくりを進めて欲しいという意見がほとんどで、地域別では合併前の上越市地区、年代別では50代・60代の意見が多い。
- 地震、災害等がいつ来るかわからない出来事が、近日多い日々が続いているが、市でも各町に連絡し合って協力体勢が出来ているのか不安である。事故災害等起きて物事が解決するのは遅すぎる。起きても、すぐに解決が出来る上越市であってほしい。(50代男性、合併前上越市)
- 防災に対する小さな組織作り。自然災害か人災か、問われる問題が多い。国、県との連携で特に水害に対して、対応してもらいたい。(60代男性、旧東頸城)

【ごみ減量とリサイクルに関するご意見 (16件)】

- ごみ減量とリサイクルの施策については、積極的に推進してほしいという意見が多く、年代別の特徴では60代の意見が7件と多い。
- かん、びん、ペットボトル回収を週1回にしてください。できれば紙・プラは週2回へ。(30代女性、合併前上越市)
- ゴミの分別を市内で統一してほしい。(30代女性、旧中頸城)
- デパート、スーパー、会社関係、病院関係におけるリサイクルゴミの分別回収が行われていないようですが、一般家庭に比べてかなりの量のリサイクルゴミが出ますので、今後回収する方向で検討していただきたいと思います。(60代女性、合併前上越市)

【防犯対策に関するご意見 (15件)】

- 治安の悪化を危惧する意見が多く、街路灯の設置や子供の通学時の安全確保などに関する意見が多い。地域別では、合併前の上越市地区が他の地域に比べ多い。
- 車社会なので県外から来て上越市内で犯罪を起こす人たちが多くなって来ています。隣近所、地域が今よりも声かけて話し合えることが大切だと思いました。(40代女性、旧中頸城)
- 治安が良い、安心と快適を確保された都市づくり、かつ、緑、自然が守られた都市づくりがされるといいのではと思いました。(20代女性、旧中頸城)

【公害対策に関するご意見 (5件)】

- 大気汚染や水質汚染などの公害が発生しないよう規制を厳しくしてほしいといった意見や、騒音についての意見があげられている。
- 公害のないみどり豊かな町に住みたいと思います。(60代女性、合併前上越市)
- 町の中にある工場は各地の工業団地に出て行き、夜は騒音がなく暮らせる地域にしてほしい。(50代男性、旧中頸城)

(2) 「健康福祉」分野に関するご意見

【子育て支援と少子化対策に関するご意見 (94 件)】

- 子育てに関する支援を充実してほしいという意見がほとんどである。年代別の特徴としては、子育て世代の30代が25件と最も多く、次いで60代の21件となっている。
- 少子化対策のために子育て支援策をお願いします。(30代女性、合併前上越市)
- 子供を産み育てやすい上越市を作してほしい。(20代男性、合併前上越市)
- 子育てひろば・こどもの家などの増設。母子交流会など、子供同士また親同士のコミュニケーションの場をつくってほしい。(20代女性、合併前上越市)

【高齢者介護の在宅福祉に関するご意見 (71 件)】

- 福祉施設の整備・充実を望む意見が大半となっている。年齢別の特徴としては、60代、50代、40代の順に意見が多く、年齢と関心度の高まりは関連していると思われる。
- 上越市も高齢化が進んでいると思います。しかし、上越市は、福祉施設が非常に少ないのが現状であり、今後の福祉施設の設置、建設等に期待いたします。(40代男性、合併前上越市)
- 市の福祉サービスがもっとわかりやすく利用できればよいと思います。(50代女性、旧中頸城)
- 福祉施設への入所待機者がなくなるよう施設の整備を希望します。(80代男性、合併前上越市)

【保育サービスの充実に関するご意見 (25 件)】

- 保育時間の延長やサービスの充実、入園規制の緩和など、具体的な要望・意見が多く寄せられている。地域別では、合併前の上越市地区が他の地区に比べて多い。
- 少子化対策も児童手当が小3まで延長したりしていますが、もう少し母親の働く環境を整えてほしいと思います。たとえば、夏休みなど休みの日の児童クラブは朝7:30から開所する、保育園は夜7時まで預かってもらえるなど。(30代女性、合併前上越市)
- 延長保育等も必要だと思いますが、金銭的援助、補助も国とは別に行ってもいいのでは。共働きの家などではそのような不安もあり、尻ごみする人が多いと思います。(20代男性、旧西頸城)

【高齢者の生きがい支援に関するご意見 (20 件)】

- 高齢者の就労の場を望む意見やレクリエーションの場の整備・充実を求める意見が多く、地域別では、合併前の上越市地区が他の地区に比べて多い。
- 老人等の働ける場所等考えて欲しい。(60代男性、旧中頸城)
- 年老いても自立出来るような支援あるいは相談所を希望する。(60代女性、合併前上越市)

【バリアフリーに関するご意見 (20 件)】

- 道路や施設のバリアフリーに関する意見が多くなっています。地域別では、旧中頸城郡地区が他の地区に比べて多くなっている。
- 市街地の道路はバリアフリー不完全が多過ぎる。(70代男性、合併前上越市)
- 古くからの町並、住宅街は歩道もなく、あっても歩きづらい。とても「人にやさしい」とは思えない所もまだまだたくさんあります。こういった場所には年寄りがたくさん住んでいます。こんな場所にも目をむけてほしいです。(40代女性、合併前上越市)

【医療体制の充実に関するご意見 (11 件)】

- 病院利用の距離的な問題など、身近な生活圏に診療所や医院の整備充実を望む意見が多い。

【障害者の自立・社会参加に関するご意見 (10 件)】

- 障害者(児)対策やサービスの充実を望む意見が多い。

(3)「産業経済」分野に関するご意見

【就業支援に関するご意見（44件）】

- 地元での就業の場の創出を要望する意見がほとんどで、地域別では、合併前の上越市地区が他の地区に比べて多く、年代別では50代、60代の意見が多い。
- 学生ですが、都会で働くことが内定しました。ふるさとで職を求めていますでしたが、働く場所も少なく自分の能力が活かせる企業がなく残念です。(20代男性、旧中頸城)
- 雇用対策が重要課題だと思う。働く場を何とかしてほしい。(30代女性、合併前上越市)
- 就労の場を増してほしいです。子供達が大学卒業してもUターンしたくても出来ない。人口を増やすにはまず就労の場です。(50代女性、旧中頸城)

【観光の振興に関するご意見（42件）】

- 観光振興により地域活性化を図る、地域資源を有効活用するなどといった意見がほとんどで、地域別では、合併前の上越市地区が35件で非常に多い。
- 他の市町村では、映画やドラマのロケに積極的に協力しているところがあるので、上越市もそうならいいと思う。(20代女性、合併前上越市)
- 他県の方にもっと観光地を知ってもらい四季をとわず、いつでも来られるような所にしていただけたら。(40代女性、合併前上越市)
- 全国にいる上杉謙信ファンが来られる観光スポットを作って欲しい。(50代女性、合併前上越市)

【商業の振興に関するご意見（38件）】

- 中心市街地の商業活性化や身近な生活圏に商業施設の充実を求める意見が多く、地域別では、合併前の上越市地区が32件、年代別では50代（12件）、60代（11件）が多い。
- 郊外型の商業施設は車がないと行けないので不便さを感じますが、高田や直江津の中心地ははつきり言って面白くないので行きません。(20代女性、合併前上越市)
- 現在、ある一部地域に商店などが集中し、そこが発展しているようですが、もとの郡部地域にも、それなりの施設や商店等がある程度ないと、とても不自由で町が充実していないと思います。(40代女性、旧東頸城)

【企業誘致の促進に関するご意見（17件）】

- 若年層を中心とした人口の流出防止策、安定した就業の場の確保、地域活性化などの観点から企業誘致を求める意見が多い。
- 今後の人口減少を少しでもくい止める為、産業誘致を進め、活力ある都市を維持してもらいたい。(40代男性、合併前上越市)
- 働く場所（就労の場）を拡大し、若者の流出（県外）をなくしないと、人口はさらに減少する。工場の誘致にこそ力を入れるべき。(70代男性、合併前上越市)

【農業振興に関するご意見（中山間地域：15件、平場地域：6件）】

- 「中山間部の農業振興」に関する意見では、担い手不足、高齢化対策、中山間地域への配慮などを望む意見が多く、地域別では旧中頸城郡地区が多い。
- 「平場地域の農業振興」に関する意見では、市街地内の農地についての意見や、農業振興方策について積極的に取り組んで欲しいなどの意見があげられている。
- 年代別では、中山間地域、平場地域ともに50代以上の意見が多くなっている。

(4)「教育文化」分野に関するご意見

【歴史的遺産の保護と活用に関するご意見（25件）】

- 歴史的遺産については観光資源として活用すべきという意見が多く、合併後も各地域の歴史・伝統・文化を大切にしてもらいたいという意見が多い。地域別では、合併前の上越市地区（18件）、年代別では60代（9件）が多い。
- 産業や環境活動も重要だと思うが、子供達に歴史、伝統文化をもっと教えていくことが必要だと思う。（30代女性、旧中頸城）
- 広大な新しい市になり集約的なことは大変なことなので、各区の文化、伝統を大切にするべき。（60代男性、旧中頸城）

【芸術・文化活動の推進に関するご意見（22件）】

- 施設の有効活用やイベントの活性化などについての意見が多い。
- 「上越教育大学」について、わずかな市民講座だけでなしに、公開講座、文化講座等々、市民が参加できるものを多く設けられるよう市当局として要望願いたい。（60代男性、合併前上越市）
- 旧上越市中心でなく、各地区の交流、イベントにも、力を入れてほしいと思います。（40代女性、合併前上越市）

【学校施設の整備に関するご意見（21件）】

- 防犯対策と関連して、通学路の整備、登下校の安全性向上に関する意見が多く、年代別では、30代と60代からの意見が多い。
- 小・中学校の老朽化が進み、改・新築の時期に来ているものが多いと思うが、これからの少子化に向けて統廃合を真剣に考えた方がよいと思われるところがある。（50代女性、合併前上越市）
- 通園路・通学路の整備、安全確保。（50代男性、旧中頸城）
- 学校を統合し、スクールバスでの通学をさせる（安全、遠距離者）。廃校舎を積極的に利用する。（60代男性、合併前上越市）

【小・中学校教育の充実に関するご意見（21件）】

- 教育内容の充実、学校区の再編、学校の統廃合などについての意見が寄せられている。
- 県内の他市の小学校では、夏休みの長期休みに学校の先生が絵の教室、算数・国語の補習、プール（希望者）など教育に力を入れている所があります。上越市も、是非、やってほしいと思います。（30代女性、合併前上越市）
- 上越教育大学はユニークな実践で世に知られているが、小、中、高は一部を除いてあまりユニークな実践があるとは聞かない。総花的に予算配分するのでなく、特色ある活動に多数の予算をかけてはどうか。（60代男性、合併前上越市）

【スポーツ・レクリエーションの振興に関するご意見（19件）】

- スポーツ・レクリエーション施設の整備充実を望む意見が多く、地域別では、合併前の上越市地区が14件で他の地区に比べて多い。
- スポーツの強化をしてほしいです。いいものを見たり、レベルの高いものを見たりする機会が少なすぎます。プロ野球の一軍・二軍、サッカーのJ1・J2をよべる環境をつくり、青少年の意識を高め、スポーツを通じて地域の活性化を図ってほしいです。（30代男性、合併前上越市）
- 今まで各町、村でやっていた祭り、体育大会とか、これからは各地区ごとにやったらいかがでしょうか。（60代男性、旧中頸城）

(5) 「都市整備・生活基盤整備」分野に関するご意見

【雪対策に関するご意見（48件）】

- 道路除雪の強化、雪下ろしの支援などについての意見がほとんどとなっている。地域別では、合併前の上越市地区が31件で多く年代別では50代と70代がそれぞれ11件となっている。
- 昨年は大雪であったが、そういう時でもきちんと除雪をしてほしい。(20代女性、旧中頸城)
- 除雪のいい所と悪い所の差がはげしいので均一にしてほしい。(30代女性、合併前上越市)
- 山間地に住んでいるので冬の除雪体制を真剣に考えてもらいたい。(50代女性、旧中頸城)
- 段々若者がいなく老人だけで雪の始末はつらい。近くの道路にも消雪対策を願いたい。(60代女性、合併前上越市)

【公共交通利便性の向上に関するご意見（39件）】

- バス交通の利便性向上を求める意見が多く、地域別では合併前の上越市地区が30件、年代別では60代が10件と多い。
- 農村部にいて困るのは、バスの便が極めて悪いこと。タクシーも、わざわざ高田から呼ばないとダメなので、年をとった時の通院や買い物心配だ。(20代女性、旧中頸城)
- 交通の便も悪く、高齢者はとても不便を感じています。市街地をマイクロバス等が回ってもらえればと思っています。(50代女性、合併前上越市)
- ほくほく線について、上越新幹線、北陸新幹線と連携を考えてほしい。北陸線の通過駅を考えて今後の活性化に努められたい。(60代男性、合併前上越市)

【主要幹線道路の整備に関するご意見（25件）】

- 渋滞の解消や広域アクセスの利便性向上を図る幹線道路整備の要望が多い。
- 国道8号と18号の交差点の渋滞を緩和する取り組みを早急にしてください。(40代女性、旧中頸城)
- 県道30号線上増田交差点の朝の交通渋滞を何とかしてほしい。(50代女性、旧中頸城)
- 上越魚沼地域振興快速道路の早期開通を望む。(60代男性、旧東頸城)

【身近な生活道路の整備に関するご意見（23件）】

- バリアフリーに配慮した道路整備や大型車の通行に対する意見、案内標識の充実を求める意見などがあげられている。地域別では、合併前の上越市地区が16件と多い。
- 災害に強い道路網の整備とありますが、細い道路が多く、降雪時に渋滞が発生したり、緊急車両の通行も大変なので早めに対応してほしい。(30代女性、合併前上越市)
- 中山間地の道路整備に力を入れてほしい。(40代女性、旧中頸城)
- 幹線道路等通過道路ばかりではなく、市民に必要な市道をつくるべきです。(50代男性、合併前上越市)

【災害に強い河川、海岸線整備に関するご意見（12件）】

- 環境保全と併せた河川・海岸整備の意見が寄せられている。
- 本年も吉川地区では7月に河川が氾濫しました。復旧工事は前の状態に戻す作業の繰り返しです。前よりも少し高くするなど向上が見られるような対応をするように出来ないものかとも思います。(50代女性、旧中頸城)
- 海岸保全と海岸地域の整備を急ぐべきと考える。(60代男性、旧中頸城)

(6) 「行財政・市民参加」分野に関するご意見

【効率的・効果的な市政運営に関するご意見（191件）】

- 行政運営に関する意見では、職員の質の向上、業務改善、市民サービスの向上などについての幅広い意見が多数寄せられている。
- 新たに取組んで行く事も重要ですが、今現在あるもの（道路、施設）を維持していくことも重要なのではないかと思う。（20代男性、合併前上越市）
- すべての住人が満足できる市づくりはできないが、今何が必要なのか、そして今後は何かをよく考え推進して頂きたい。（40代男性、旧中頸城）
- お金がなくても生活が豊かになれるようなまちづくりを望む。（40代男性、旧西頸城郡地区）
- 合併前の上越市と現在の13の各区の生活水準が均等になってほしいと思っています。（50代男性、旧東頸城）
- 広域合併により、市の行政サービスの低下が懸念される。（70代男性、合併前上越市）

【健全な財政運営に関するご意見（63件）】

- 税金の有効活用、効果的な財政投資などについての幅広い意見が多数寄せられている。
- 生活基盤や農業基盤、商工基盤の整備はほぼ完了していると思います。今後はこれらの基盤整備されたものをいかに低コストで維持していくか、有効活用するかが大切だと思います。（ハード事業→ソフト事業へ）（20代男性、旧東頸城）
- 財政的にどんどん厳しい状況になるとと思いますが、ムダを徹底的に省き、クリアな行政をお願いしたいと思います。（30代女性、合併前上越市）
- 良いことは積極的にやってもらいたいが、将来に大きな財政負担にならないような方法が必要と思います。（50代男性、旧中頸城）
- 行財政改革等、今後課題は多いと思われるが、特に上越市行政はスリム化を図るべきだと思われる。（70代男性、旧西頸城）

【市民参画のまちづくりに関するご意見（46件）】

- 市民が積極的にまちづくりに参加できる仕組みづくり、市民との対話の推進など、市民主体のまちづくりについて幅広い意見が多数寄せられている。
- 情報が我々末端市民（村民）には早く、正しく伝わらないように思えます。「見た、聞いた」だけでなく、「見えた、聞こえた」と言う様な工夫を！（30代男性、旧中頸城）
- 住みたい、離れたくないと思うような街づくりをするにはどうすれば良いか、働く場所、住環境など多くの課題がありますが、多くの市民の声を聞くのが一番だと思います。（40代男性、合併前上越市）

【地域コミュニティ活動支援に関するご意見（12件）】

- 地域コミュニティ活動に対する支援や、活性化を図るための施策の充実を求める意見が寄せられている。
- もっとボランティア活動やNPO活動の場を増やして欲しい。（20代男性、合併前上越市）
- 各区の特性を生かし、各区分散型の拠点施設等の設置を実施して、市民流動を図って欲しい。（市域の活性化）（40代男性、旧東頸城）

10. 市民の声アンケートから見える上越市の政策課題

ここでは本調査の分析結果から得た「市民意識」から導き出される、今後の政策課題を整理する。

10-1. 「生活実感・暮らしやすさ」などからみた政策課題

本調査において、地域に愛着を感じている市民は約8割、暮らしやすいと感じている市民は約7割と全体的に高くなっている。これに対して、今後の生活への期待度については約5割と地域に対する愛着度や暮らしやすさの満足度に比べて低くなっている。

■主なアンケート結果

	全体	合併前の 上越市	旧13 町村
地域に愛着を感じている市民	82.0%	82.9%	81.6%
暮らしやすいと感じている市民	72.7%	75.0%	70.1%
今後、もっと暮らしやすくなると期待している市民	52.4%	56.0%	47.7%

合併前の上越市と旧13町村でこれらの項目を比較すると、すべての項目において旧13町村が低くなっており、特に暮らしやすさと今後の生活への期待度には比較的大きな違いが見られる。

今後の生活への期待の度合いは、市民の不安感の裏返しであるとも考えられ、現在の状況や社会経済状況の不透明な見通しによる不安に加え、特に旧13町村の市民にとっては、合併して間もない中で、漠然とした不安を感じているものと考えられる。

こうしたことから、今後の政策全般の課題としては、新しい上越市における一体感を醸成し、そうした市民の不安を取り除いていくことであり、具体的には、「2. 現在の生活や暮らしについて」(p11~25)の市民の「暮らしやすさ」を感じる点、「不便や不満」を感じる点、「8. 将来のあるべき姿について」(p133~134)のイメージ、「9. 自由意見のとりまとめ」(p135~145)などの結果から、以下にあげる4つの事柄を政策課題としてまとめた。

- (1) 多様な地域特性・課題への対応
- (2) 老後の生活不安の解消
- (3) 魅力ある就業環境の創出
- (4) 安全に安心して暮らせるまちづくり

(1) 多様な地域特性・課題への対応

現在の生活を暮らしやすいと感じている市民は全体で約 7 割となっているが、合併前の上越市に比べて、旧 13 町村が低くなっている (p14)。同様に「今後、もっと暮らしやすくなると期待している」市民も地域別にみると、旧 13 町村で低くなっている (p18)。

生活の中で「暮らしやすさ」を感じる点についても、合併前の上越市では、「買物が便利」が旧 13 町村と比べて多くなっており、逆に旧 13 町村では「自然(緑)が豊か」が多くなっている。旧 13 町村内において比較すると、旧東頸城郡では「人情味がある(人々の人情が厚い)」が高いなど、様々な設問において地域による差が現れている (p20)。

具体的な分野について見てみると、「生活で「不満や不便」を感じる」ところの 3 位に「バスや鉄道など交通の便がよくない」があげられている (p22) 一方、「暮らしやすさ」を感じる」ところでは、「交通の便がよい」が 3 位の評価を得ている (p19)。広い市域を有する上越市においては、地域によって交通利便性に差が生じていることがうかがえる。自由意見においても、交通の便が悪く外出が不便であるとの意見が多く見られ、特に高齢者など車の運転ができない市民にとっては、公共交通の充実が切実な願いであるといえる (p144)。

また、「生活で「不満や不便」を感じる」ところの 4 位に「雪が多く降る」があげられているが、地域別にみると旧東頸城郡において「雪が多く降る」が 1 位にあげられ 61.1% を占める結果となっており、市域のなかでも豪雪地帯である特性があらわれている (p22~23)。

自由意見では、「効率的、効果的な市政運営に対する意見が 191 件 (1 位) と最も多く、市民の多種多様なニーズが現れているほか、「合併前の上越市と現在の 13 の各区の生活水準を均等に」や「広域合併による行政サービスの低下が懸念される」といった意見がみられる (p136)。

このように合併による市域の拡大により、地域における生活やまちづくりに対する意識の差がより顕在化しており、今後は多様な地域特性に配慮しながら、地域特有の課題にきめ細かく対応していくことが必要である。

(2) 老後の生活不安の解消

上越市の人口は昭和 60 年の約 21.6 万人をピークに減少傾向にある。また、高齢化率 (65 歳以上の人口比率) は、一貫して増加傾向にあり平成 12 年では 21.9% となっている。

人口推計の結果では、平成 27 年には総人口が約 20.2 万人まで減少する一方で、高齢化率 (65 歳以上の人口比率) は、27% にまで上昇することが予測される。

「生活で「不満や不便」を感じる」ところは、「老後の生活が不安である」という回答が最も多く 5 割を占めているが、50 代以上の回答が特に多くなっている。また、前回 14 年度調査時点と比べても約 12% の増加となっている (p22~24)。

これは、人口減少時代に入り、今後も高齢化が進展していくことを背景に、医療や年金制度への不安などが心理的に大きな影響を及ぼしているものと推察される。特に 50 代以上の年代において老後の生活への不安が高まっていることを踏まえ、こうした不安を解消する政策が必要である。

(3) 魅力ある就業環境の創出

内閣府の「社会意識に関する世論調査」(平成17年2月)によると「現在の日本の状況について悪い方向に向かっていると思う分野」を聞いた結果では、「国の財政」(39.1%)、「景気」(38.5%)、「雇用・労働条件」(35.4%)などの、経済環境の悪化に起因した回答が上位に位置している。(複数回答)

本調査においても「生活で「不満や不便」に感じるところ」は、「魅力のある働く場が少ない」が約4割を占めており(p22~24)、自由意見では、就業支援に対する意見が出されており、「働く場が少ないことが要因となって若者の流出や定住人口の増加が図られないため、地域活力が停滞している」などの意見が寄せられている(p142)。

上越市では、工場数・事業所数・従業者数が減少しており、中心市街地の商業環境が衰退するのに伴い、商店数も減少している。また、公共事業が減少していることなどを背景に、これまで市の基幹産業であった建設業の事業規模が縮小しており、こうした就業環境を取り巻く環境の変化が市民の意識に影響したものと考えられる。

このため、今後の市政運営にあたっては、特に若年層を中心に定住を促す魅力ある働く場の確保と、子育て中の女性にとっても働きやすい環境や高齢者・障害者の自立した生活を支援するための働く場の充実など、多様で魅力ある就業環境の創出を図る政策が必要である。

(4) 安全に安心して暮らせるまちづくり

前述の「社会意識に関する世論調査」の「現在の日本の状況について悪い方向に向かっていると思う分野」において「治安」が47.9%と最も多くなっている。

本調査においても、「上越市が目指すべき将来のまちの姿」を表す言葉としてイメージに近いものについての回答では、「安全、安心」が44.2%と最も多く、すべての年代、すべての地域で1位に選ばれている。(p133~134)。

また、暮らしやすさを感じる場所については、「自然(緑)の豊かさ」に続いて、「災害が少ない」ことが上位にあがっている(p19)。

市の取組の重要度に関する設問においても、「防災対策」、「医療体制の充実」、「雪対策」、「安全な水道水の安定供給」、「防犯対策」などの取組があげられている(p101~102)ほか、自由意見においても「子育て支援と少子化対策」、「高齢者介護の在宅福祉に対する意見」、「雪対策に対する意見」、「就業支援に対する意見」など安全で安心して暮らせることに対する意見が多い(p136)。

これらの結果から、防災対策や防犯対策のより一層の充実により、いざというときの「暮らしの安全」を高めるとともに、老後への不安の解消や就業環境の充実など日常における総合的な「暮らしの安心」を市民が感じることができるとする有効な政策が必要である。

また、市民に安心感を与えるためにも、市の様々な取組や行政運営のあり方について、旧13町村の市民を含めすべての市民に提示し、共有化していくことも課題である。

10-2. 施策分野別にみた政策課題

ここでは、「4. 各分野における取組について」の分析を通じて、「4-5 満足度と重要度の比較」について検討した結果から得た「改善項目」「促進項目」(p104~109)を中心としてこれまでの上越市の取組も踏まえながら、施策分野別にみた政策課題を整理した。

(1) 生活環境分野

①防犯対策

近年、全国的に犯罪発生件数が増加傾向にあり、子どもを対象とした事件や、青少年犯罪の低年齢化・凶悪化、高齢者を対象とした詐欺事件など悪質な事件が多発している。

生活環境分野の項目の中でも「防犯対策」に対する不満の度合い(やや不満と不満の合計:以下「不満度」という)は35.1%で最も多く、若い子どもを持つ20代~40代は特に満足度(やや満足と満足の合計:以下「満足度」という)は低い結果となった(p35、p37)。また同様に交通安全対策について特に20代、30代の満足度が低かった(p38)。

また、自由意見でも、防犯灯の設置や、防犯面から児童・生徒の通学に際してスクールバスの運行を求める声が寄せられている(p140)。

上越市内においても、これまで犯罪件数が年々増加していたが、平成15年に警察や行政を中心に発足した「上越市“あんぜん・あんしん”街づくり懇談会」や地域住民による活発な防犯活動により、平成15年から犯罪件数は減少に転じ、平成16年は平成15年と比較して、さらに19.5%減少した。こうした成果を、さらに発展させ、市民が安全に安心して生活を送ることができるよう、家庭・学校・地域と行政が連携した防犯対策の強化を図ることが必要である。

②環境対策

地域の暮らしやすさの理由として「自然(緑)が豊か」との回答が最も多く、上越市が有する豊かな自然環境は市民の財産でもある(p19)。

また上越市では、全国の自治体として初めて環境マネジメントシステムのISO14001を取得したことをはじめ、近年、汚泥リサイクルパークを整備し、生ごみからメタンガスを回収し利用するシステムを構築したことなど、環境に対する先進的な取組を行ってきた。

こうした取組に対する市民の満足度は非常に大きく、本調査においても「ごみ減量とリサイクル」に対する満足度は最も高く、53.3%となっている(p31)。また、重要度の高い取組としての評価も高く(p101)、「ごみ減量とリサイクル」などの環境対策は引き続き促進していくべき取組といえる。

しかし、その他の環境分野の評価をみると、「産廃の処理対策」に対する不満度が26.6%と高く、「新エネルギー対策」に対する不満度も24.7%と高くなっている(p35)。また、「産廃の処理対策」、「地球温暖化対策」、「新エネルギー対策」はそれぞれ重要度が高いものの満足度は平均よりも低くなっている(p104)。

これまで環境対策について先進的な取り組みを行ってきた本市であるが、市民の財産である自然

環境の保全や地球温暖化防止対策について、より一層の取組の充実を図ることが課題である。

③防災対策

阪神淡路大震災、中越大震災などをきっかけとして、地震災害などへの防災意識が高まっている。また、近年の異常気象による局地的集中豪雨や台風などにより、洪水や浸水被害が全国各地で発生していることから、治水対策についての市民意識も高まりつつある。

上越市には山間地の集落も多く、大地震等の際には道路が寸断されてしまう可能性もある。地震や水害に対する施設の整備や防災を意識したコミュニティの形成などハード・ソフト両面から都市防災機能の向上を図っていくことが課題である。

内閣府が全国を対象として実施した「水害土砂災害等に関する世論調査」（平成 17 年 6 月）では、現在より充実して欲しい防災情報について調査したところ、「災害時の避難場所や避難経路」が 57.3%と最も高く、以下、「居住地域で過去に災害が発生した場所を示す地図」（46.8%）、「将来、被害を受ける可能性が高い場所を示した地図」（45.9%）などの順となっている。（複数回答、上位 3 項目）

本調査では、「自宅や勤務先の周辺にある災害時の避難場所」について約 3 割弱の市民が「知らない」と回答している（p26）。また、自由意見の中には、上越市の市域は広く、各地域との連携強化など災害時への備えが重要であるとの声がある（p140）。

災害時の備えや対応、地域防災組織の充実、災害情報の提供方法などについて検証し、市と市民との協働により、日常の備えを強化していくことが課題である。

（2）健康福祉分野

①子育て支援と少子化対策

上越市人口に占める年少人口（0～14 歳）の割合は、昭和 60 年の 21.0%から平成 12 年には 15.3%に減少し、平成 27 年には 13.9%になると推計されている。

健康福祉分野の中でも「子育て支援と少子化対策」に対する不満度は 24.5%と高くなっており（p45）、また、自由意見においても子育て支援に関する意見が多数寄せられている（p141）。

我が国においては、出生率の低下が予想を上回る速度で進んでいることなどを背景に、人口動態推計では平成 17 年中に人口減少社会に入ったと推計されている。少子・高齢化の進行は、長期的には、労働力人口の減少や年金、医療、福祉等社会保障分野の負担が増大するなど、社会全般に影響を及ぼすものとなる。

少子化の影響は、地域の次代を担う人材の不足という観点からも一層深刻となっており、健康福祉分野に限らず将来に向けての大きな問題である。

少子化の主な要因の一つには、子育てがしにくくなっていることがあり、その対策とともに、子どもたちが健やかに育つことができるよう、家庭・地域社会・企業・学校・行政が一体となって、子どもを安心して産み、育てられる子育て支援の環境づくりを推進することが課題である。

②バリアフリーと高齢者・障害者対策

高齢者や障害のある人をはじめ、すべての人々が地域の中で安心して暮らせるバリアフリーの環境づくりに対する不満度は 26.9%と高くなっている（p45）。今後高齢化が進展する中で、道路

などの公共空間や施設のバリアフリー化の推進は、特に改善を要する取組と考えられる。

また近年では福祉ボランティアや地域コミュニティなどの「人と人との支えあい」による、安心して住み続けられる社会の構築が全国的な課題となっている。上越市では、約5万4千人の市民がボランティアやサークルに加盟しており、地域福祉の現場で大きな役割を担っている。こうした取組に対する積極的な支援を継続するとともに、高齢者や障害者の在宅福祉の充実などを推進することが重要である。

また、高齢者の健康寿命(認知症や寝たきりにならないで生活できる期間)を伸ばす取組として、健康づくりや生涯学習・社会参加の機会の創出など、生きがい対策の充実を図ることも重要な課題である。

市では平成17年度にユニバーサルデザイン推進室を設置し、すべての人が、ともに支え合い、助け合いながら、意識上の障壁のないすべての人にやさしいまちづくりを進めることとしており、今後もこうした考え方を多様な政策に反映させていくことが課題である。

③医療体制の充実

健康福祉分野の中でも、「医療体制の充実」に対する不満度は28.3%と最も高く(p45)、施策の重要度も健康福祉分野の中では、最も高くなっている(p101)。自由意見では、病院利用の距離的な問題などの意見が多く、身近な生活圏に診療所や医院の整備充実を望む意見が多い(p141)。子育て支援の視点からは、小児科の充実を望む声があり、高齢者福祉の視点からは生活に身近な場所で利用できる医療施設の適正な配置が望まれている。

しかし、医療体制の充実について行政が対応できる範囲は限られており、医師会などとの連携や協力体制等の構築も必要となる。

また、医療施設の整備だけでなく、医療施設までの交通アクセスについても改善を求める市民の声があり、バスや福祉タクシーなどの公共交通の充実についても併せて検討する必要がある。

なお、医療とも関連のある健康づくりに対し20代~40代の関心の度合いが低くなっており、若年代からの予防を含めた、意識の改善と健康づくり活動の啓発を進める必要がある。

(3) 産業経済分野

①就業支援と中小企業支援

「就業支援」についての不満度は34.5%と高い(p56)。これは前述したように「生活で「不満や不便」に感じるところ」では、「魅力のある働く場が少ない」が約4割を占めていることにつながっている(p22~24)。自由意見の中にも、若い世代が就職する場がないので他の地域へ移り住むなどの意見が見受けられ、働く場の充実が切実に求められている(p142)。

また、「中小企業の支援」についての不満度も25.7%と高くなっている(p56)。これまでの中小企業支援方策の充実と併せ、団塊の世代が定年退職の時期を迎える「2007年問題」についても早急に対応を図ることが求められる。

2007年問題では、特に多くの経験豊かな技術者が引退することに起因する問題が大きい。90年代からの不況の影響で、中堅として企業内での中核を担う20代後半から30代半ばにかけての人員が少なくなっていることも影響し、技術が次世代に伝承されないまま多くの技術者の退職を迎えることが現実になろうとしており、これはあらゆる業種に共通している。

地域産業の技術力を支えてきた団塊世代の技能を伝承するため、意欲と能力のある高齢労働者の雇用を継続する必要があるほか、労働力の減少を補うため、付加価値の高い技術の開発や、技術を経営に生かす体制の整備、若年層を中心にした労働の質向上等を図ることなど、新たな中小企業の支援方策を見出していくことが重要な課題である。

②商業の振興

産業経済分野の項目の中では、「商業の振興」についての不満度が 35.9%と高い（p56）。また、自由意見では、中心市街地における商業活性化への取組を求める意見や、身近な場所に商業施設を望む意見など、地域の特性に応じて様々な意見が寄せられている（p142）。

また、上越市が今後、都市としての魅力を高めるための整備についての設問では、「既存商店街の活性化」が2位にあげられ、大規模な商業施設の整備よりも上位となっている（p129）。

商業の振興については、市民の生活スタイルの変化に対応した商業環境の整備が望まれており、今後の高齢化社会を展望すると、これまで以上に消費者側の視点に立った商業のあり方についても検討していくことが課題と考えられる。例えば、商店街や地域の商業組合等による配達サービス等を付加するなど、生活に必要で身近なサービスを提供するコミュニティビジネスの視点からの検討などにより、地域社会のニーズに対応した展開が求められる。

③観光の振興

観光の振興については、旧13町村に比べて、合併前の上越市における不満度が高くなっている（p66）。自由意見では、上越市には恵まれた自然や歴史、文化遺産などの多種多様な観光資源があるものの、それらが有効に活用されていないとの意見が寄せられている（p142）。

北陸新幹線の開通により、広域からの交通利便性は飛躍的に高まることになる。しかし、人々を誘引する魅力的な要因をさらに高めていくことができなければ、逆に、北陸新幹線の開通がストローク効果となってしまふことも考えられる。このため、上越市の有する自然環境を生かしたグリーンツーリズムや歴史文化的資産に磨きをかけ、人々が上越市への来訪を目的とするよう魅力的な地域の観光開発を推進することが求められる。

観光振興がもたらす観光・交流人口の増大による効果は、大きく「経済的効果」と「社会的効果」に分類できる。まず、経済的な効果については、観光客の消費支出の増大により「既存産業の活性化や新規産業の立地」が進み、「地域での雇用が拡大」し、「地域住民の所得が増大」する。一方、社会的な効果については、「新規定住者の増加」や「観光客との交流」が活発化するとともに、知名度の浸透により「地域イメージの向上」につながる。

いずれも、インフラ整備の進展、税収の増加、活力ある社会、豊かな生活の実現といった地域の振興に直接、間接に影響するものであり、今後の地域活性化のためにも観光の振興を図ることは大きな課題である。

（４）教育文化分野

①教育環境の充実

「学校施設の整備」については近年校舎の耐震強度やアスベストの問題などが発生しており、学校施設の安全確保が非常に重要な課題となっている。こうした課題に対する市の取組に対し、一定

の満足が得られている(29.0%)一方で、不満度も22.7%と高くなっており評価が分かれている(p70)。自由意見では児童・生徒の通学路の安全性に関する意見が寄せられており、大雪時の登下校難や防犯、交通事故の防止など、多様な面から検討を図る必要がある(p143)。

遠距離通学を余儀なくされる地域などにおいては、市民からの要望も多いスクールバスの導入について、例えば登下校時間以外に、高齢者・障害者福祉のための交通手段として併せて活用するなど有効な手法を検討する必要がある。

また、「小中学校教育の充実」については、総合学習の時間において、地域の住民が講師として参加し、地域と学校との連携による取組が実践されていることなどを背景に、一定の満足度(21.2%)を得ているが、年代別で見ると20代、30代、40代不満度が高い(p72)。自由意見では地域の歴史や文化、環境教育にも力を入れて欲しいとの意見があり(p143)、地域特性を活かした教育内容の充実を一層向上させることが課題である。

学校は、学習を含めて、子ども達の健全な育成を促す役割を担っており、子育て支援の観点からは、学童保育の充実や、家庭・地域とのより一層の連携を図ることも重要である。

さらに、少子化の進行に伴ない、児童数の減少による複式学級が生じるといった状況が予想される中、学校運営、学校教育の充実の観点から学校区や学校選択制度のあり方の検討を進めるとともに、住民の意向を尊重しつつ学校の統廃合についても考えていく必要がある。

②高等教育機関との連携

高等教育機関の誘致・新設についての不満が多い(p70)自由意見では上越教育大学における市民講座の充実についての意見などが見られる(p143)。

しかし、高等教育機関の誘致については少子化の影響などを背景に学生数が減少していることなど、大学等の経営も厳しい状況にある。全国的に大学等の高等教育機関を誘致した自治体では、誘致に際しての支援契約等が大きな財政負担になっている地域もある。

市民のニーズというだけでなく、このような社会背景を踏まえた上で、高等教育機関の誘致については慎重に検討するとともに、現在ある施設との連携を重視していく必要がある。

(5) 都市整備・生活基盤整備分野

①雪対策

都市整備・生活基盤整備分野の中では、「雪対策」についての不満度が38.5%で最も高くなっている(p80)。地域によって降雪量に違いがあるものの、地域による満足度の差は大きくない一方で、若い世代の不満度が高いなど、年代別に見ると雪対策に対する不満の割合に差が出ている(p84)。若い世代の不満度が高いのは、特に降雪時、車での移動に支障が出るなど、交通への影響が大きな理由であると考えられる。

自由意見においては、山間地で暮らす市民から道路の除雪に関する意見や、雪おろしの問題などが主な問題としてあげられている(p144)。

雪の問題は、当地で暮らす人々にとって避けては通れない問題であるが、居住する地域や生活スタイルにより問題の捉えかたや切実さも違うであろうことは推察できる。旧東頸城郡は特に降雪量の多い地域であるが、満足度においては他地域との大きな差はない。このことから年齢や地域によって感じる雪の問題を正確に捉え、適切な対策を行っていくことが重要である。

②総合的な交通体系の整備

交通に関する項目では、「鉄道・バス等の公共交通の利便性の向上」に対する不満度が 36.2%と高く、「身近な生活道路の整備」についても 25.5%と不満度が高くなっている（p80）。また、自由意見においてもバス交通の充実を求める意見や、身近な生活道路の整備を求める意見が多く見られる。（p144）。

持続可能な地域の発展のためには、地域経営の視点から交通体系を捉え、マイカーと公共交通の適切な役割分担や、都市基盤整備、まちづくりとの関係を意識した総合的な取り組みが必要である。

このため、市では現在「上越市総合交通計画」を策定中であり、広大な行政区域を有する上越市において、安全・安心な市民生活を支え、都市としての一体性を高めるためにも、地域間の有機的な交通ネットワークの構築を推進することが重要な課題といえる。

主要幹線道路網の整備については、着実な整備が市民の満足度に影響を与えており、満足度は比較的高い（39.5%）（p80）。今後も広域幹線道路となる上越魚沼地域快速道路など、市域の骨格となる幹線道路網の整備を促進するほか、主要な生活道路について、バリアフリー対応や冬季の除雪・消融雪施設の整備などを推進することが課題となる。

③災害に強い河川、海岸線の整備

市町村合併により、本市の海岸線の延長が 39.3 km に伸びたことを背景に、海岸保全の対策が重要な課題となっている。「災害に強い河川、海岸整備」についての不満度は 23.0%と高く（p80）、自由意見では、河川の氾濫や海岸侵食への対策などへの意見がみられ（p144）、水害対策や海岸侵食への対策強化が求められている。

④生活排水対策、安全な水道水の供給

「生活排水の処理対策」や「安全な水道水の安定供給」については、満足度が非常に高くなっている（p80）が、日常生活に欠かせない生活基盤として、市民の重要度も非常に高く、今後引き続き充実していく取組みである促進項目として抽出された（p108）。市民が安心して生活できる基盤施設として、引き続き充実を図ることが課題である。

（6）行財政・市民参加分野

①効率的・効果的な行財政運営

「効率的・効果的な市政運営」に対する不満度は 23.8%と高く（p95）、自由意見においては無駄を省き、効率的な事務事業を行うことなどの意見が多く寄せられた。また、広域的な市域となったことから、行政サービスが低下するのではないかと危惧する意見も見受けられた（p145）。

広域的な合併により誕生した新しい上越市は、「市民本位のまちづくり」を基本として、市民ニーズに的確に対応できる自治体としての役割を認識し、効率的・効果的な行政運営を推進していくことが課題である。

また、「健全な財政運営」に対する不満度は 24.5%と高く（p95）、「税金が有効に活用されていない」と感じる市民の割合は、約7割強となっている（p28）。

自由意見では、財政運営について厳しい意見が多く見受けられ、今ある施設を有効活用することを提案する意見などが見受けられた（p145）。

現在、国では地方分権推進法と併せ三位一体の改革を推進しているが、地方自治体においても財政改革への取り組みが進められており、公共施設の整備や維持管理における財政負担の軽減を図るため、PFI等による施設整備事業や指定管理者制度への取組など、様々な施策が展開されている。

こうした様々な行政を取り巻く環境の変化に対応するため、市では行政改革大綱、推進計画を策定し、取り組んできているが、今後も、必要な行政サービスを将来にわたって維持し、持続可能な自治体として市民ニーズに応え、より一層、簡素で効率的な行財政運営を進めていくとともに、官民の役割分担についても検討していくことが課題である。

②市民参加の一層の推進

これまでみてきたように、今後、上越市が持続可能なまちづくりを進めていくためには、市と市民との協働や、地域の連携など協働のまちづくりを発展させることが不可欠であると考えられる。

「市民参画のまちづくり」「地域コミュニティ活動の支援」については、満足度、不満度ともに割合は高くはない一方、「どちらともいえない」という回答が6割強を占める（p95）。

これはこうした活動に関心が高くない市民が多いことや、効果的な施策の工夫をさらに図っていくことが必要であることを示しているものと考えられる。

現在、上越市のNPOボランティアセンターには180を超えるボランティア団体が登録している。また、13区に地域自治区、地域協議会を設置して各区の市民からの意見を聞きながらまちづくりを進めるとともに、市民が自立的に住民自治を担う取組がはじまっている。

こうした市民参画のまちづくりの実績を活かし、今後は、これまで以上に市政に関する情報公開を推進し、オンブズパーソン制度やパブリックコメント制度、地域協議会などにより、政策形成段階から市民の意見を市政に反映させていくことを通じて市と市民との協働のまちづくりを発展させていくことが課題である。